

## 第17回アドバイザー・ボード会合の概要

「アドバイザー・ボード」の第17回会合の日時・出席者・概要等については、以下に示すとおりである。

日 時：2018（平成30）年2月22日（木）15時00分～17時00分

場 所：神戸大学六甲台本館3階大会議室

出席者：

アドバイザー・ボード委員（五十音順、敬称略）

加護野 忠男、北 幸二、佐伯 剛、平松 秀則、吉井 満隆

研究科教員

鈴木一水、黄 磷、末廣英生、松尾博文、栗木 契

最初に、末廣プログラムディレクターから、平成28年度から導入した経営学特別学修プログラムについて説明した。初めに、このプログラムは1年次の経営学教育で学んだことを使って経営現象を理解できる基礎的能力を育成することを目的としており、この目的を実践するための授業設計についての説明があった。続いて、第1回目のプログラム修了者について、その履修状況と教育成果の説明があった。結果として、このプログラムの目的の達成度は高くなかったことから、その問題点と今後の課題について議論があった。

次に、松尾博文 GMAP ディレクターから、KIBER/KIMERA/SESAMI プログラムについて概要説明があり、現在の KIBER プログラムの留学生・受入交換留学生数、SESAMI プログラムの大学院生数の報告があった。また、今年度 RIAM と合同でスペインのビジネススクールの学生を受け入れて実施した研修事業について説明があり、来年度も引き続いて実施する予定であるとの報告があった。最後に、今後の課題として、神戸大学経営における国際的な共同研究の推進と研究のグローバルな発信の増大、SESAMI 予算の安定化について説明があった。

続いて、栗木 MBA 教務委員から、神戸大学 MBA の取り組みの説明があった。主な内容は、2015年から実施し高評価を得ている MBA 公開セミナーに関する開催頻度・テーマ・参加人数などの紹介、コア科目導入後の現状と課題点、成績評価と表彰制度についての説明があった。

最後に、鈴木研究科長から、「神戸大学大学院経営学研究科の直面する課題」と題して、説明があった。課題として、予算削減によるカネの制約、ポイント制導入によるヒトの制約、科学研究費助成事業の申請率の引き上げ、学生定員数の検討等の説明があり、経営学研究科全体として今後さらに検討していくことを説明した。

これらの報告の後、経営学研究科が取り組んでいる内容に関して、アドバイザー・ボード委員からアドバイスやコメント、さらには出席者による活発な意見交換が行われた。